

眼内レンズのピントあわせ

松浦 俊博

先月、近所の都立大塚病院で白内障処置と緑内障抑制の手術を受けた。白内障手術は水晶体嚢を^{すいしょうたいのう}3mmほど切開して、黄色く濁った水晶体を乳化して吸引除去し嚢を支えとしてアクリルレンズを挿入する顕微鏡手術である。手術自体は十五分くらいで終わるが、私の場合は度が強いので、片目につき一泊入院となり、両眼の処置に三週間くらいかかった。

もともとド近眼で左右のバランスは悪く、かつ乱視もひどいのでメガネをかけてもお月様が三つに見えていた。「今より悪くなることはない」という開き直りもあり手術を受けた。眼科長である女医T先生が担当してくれた。最初は厳しい方だと思ったが、次第に親切で優しいことがわかり気に入る。初診で「右は近くが見えて、左は少し遠くが見えるように調整すればメガネなしでも生活できるでしょう」と言われた。何のことかわからず決めかねていたら、「右目のレンズは選択の余地がありません。右目の手術後にどのように見えるか分かった時点で左目のレンズを選択しましょう」と提案された。

右目の手術が終わり、左目は裸眼のままという状態が二週間続いた。右目は目から35cmくらいにピントが合っており明るく大きく見える。左目のピントは15cmくらいで、像は黄色く小さく見える。両眼をあけると、右目のはっきりと明るい像が支配的でよく見えるが、左目のぼやけた黄色い像が僅かに重なり邪魔である。

さて左目の手術も終わり、両眼とも眼内レンズ装着状態になった。左目は眼から50〜60cmくらいにピントが合っている。右目に比べると少し遠くの物もボケない。眼内レンズは遠近両用・乱視矯正の仕様だそうでメガネをかけていた時よりもよく見える。像も大きく明るい。近視は残っているので、遠くの字は読めないが、普段の生活にはあまり不自由はない。また、左右の視力バランスは少し異なるが、脳でそこそこ処理してくれるようで特に違和感はない。名医T先生の狙いはこれだったかと、ようやく実感する。

これまでメガネをかける生活に慣れてきたので、外に出るときは近視矯正用のメガネをかけたいと思う。